



令和2年度 所沢市男女共同参画に 関する市民アンケートの結果

所沢市企画総務課男女共同参画室



1 調査の目的

所沢市では、令和元年度に第4次所沢市男女共同参画計画を策定し、男女共同参画に関するさまざまな取り組みを進めています。この調査は計画の進捗状況の確認と、所沢市の現状の把握のほか、市民の意見を伺うため実施しました。

2 調査の設計

- 調査対象 所沢市在住の18歳以上の男女
- 配布数 2,000人（男性1,000人、女性1,000人）
- 抽出方法 住民基本台帳により年齢層ごとに無作為抽出を行いました
- 調査方法 郵送配布
- 調査期間 令和3年3月5日～3月25日
- 質問項目 Q1～Q25（総質問数 54問）

3 回収結果

	配布数	回答人数	回答率 (回答数/配布数)	構成比 (回答数/回答総数)
男性	1,000	309人	30.9%	43.8%
女性	1,000	384人	38.4%	54.5%
その他	—	1人	—	0.1%
無回答	—	11人	—	1.6%
総数	2,000	705人	35.3%	100.0%

4 表記について

○男女別の回答の割合を示した表については、計算の元となる回答者数（n）に「その他」と、「（性別）無回答」は含めていません。（次ページの「回答者のプロフィール」を除く）

○各表は質問項目に該当する回答数を100%として計算した比率を示していますが、複数回答を可能とした質問は、全体が100%を超えます。

○各質問で回答で割合の高かったものと、「所沢市第4次男女共同参画計画の評価指標」に該当する部分は、文字を太字にしています。

5 回答者のプロフィール（質問Q8、Q20～23より）

《Q20 あなたの性別を教えてください》

	回答数	構成比
男性	309	43.8%
女性	384	54.5%
その他	1	0.1%
無回答	11	1.6%
計	705	100.0%

《Q8 あなたは現在働いていますか》

	合計	男性	女性	その他	無回答
	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
働いている	63.0%	71.5%	57.3%		27.3%
働いていないし、仕事を探してもいない	28.2%	22.7%	32.8%	100.0%	18.2%
働いていないが、仕事を探している	4.7%	5.2%	4.2%		9.1%
産休・育休・病休などで一時的に仕事を休んでいる	1.8%	0.3%	3.1%		
無回答	2.3%	0.3%	2.6%		45.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

《Q21あなたの年齢層を教えてください》

	合計	男性	女性	その他	無回答
	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
18～19歳	2.1%	1.3%	2.6%		9.1%
20～29歳	9.6%	9.7%	9.9%		
30～39歳	13.5%	13.6%	13.5%	100.0%	
40～49歳	13.2%	10.7%	15.6%		
50～59歳	16.6%	16.2%	17.4%		
60～69歳	23.7%	25.6%	22.9%		
70～79歳	19.9%	23.0%	18.0%		
無回答	1.4%	0.0%	0.0%		90.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

《Q22あなたは結婚されていますか》

	合計	男性	女性	その他	無回答
	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
今現在結婚している	66.1%	68.3%	65.4%	0.0%	36.4%
結婚していたが、離別・死別した	11.3%	7.1%	14.6%	100.0%	9.1%
結婚したことはない	20.3%	23.0%	18.5%	0.0%	9.1%
無回答	2.3%	1.6%	1.6%	0.0%	45.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q1 女性の地位は平等になっていると思いますか？

(1) 家庭生活	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	9.7%	4.9%	13.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	42.4%	38.8%	45.3%
平等である	34.1%	42.7%	27.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.2%	6.8%	3.9%
女性の方が非常に優遇されている	1.3%	1.9%	0.8%
わからない	4.6%	3.9%	5.2%
無回答	2.7%	1.0%	4.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 職場	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	13.4%	6.8%	18.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	47.8%	50.8%	45.3%
平等である	22.9%	26.2%	20.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.9%	7.8%	2.6%
女性の方が非常に優遇されている	0.9%	1.6%	0.3%
わからない	7.5%	5.8%	8.9%
無回答	2.6%	1.0%	3.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 学校教育の場	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	2.5%	0.6%	3.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	17.6%	13.3%	21.1%
平等である	53.7%	61.8%	47.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.2%	2.9%	1.6%
女性の方が非常に優遇されている	0.4%	1.0%	0.0%
わからない	20.2%	18.4%	21.6%
無回答	3.5%	1.9%	4.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 政治の場	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	40.7%	31.4%	48.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	41.6%	44.3%	39.3%
平等である	7.2%	12.9%	2.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.4%	2.6%	0.5%
女性の方が非常に優遇されている	0.4%	1.0%	0.0%
わからない	6.1%	6.5%	5.7%
無回答	2.6%	1.3%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 法律や制度の上	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	12.6%	5.8%	18.0%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	36.4%	29.4%	41.9%
平等である	29.1%	41.7%	19.0%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.9%	9.4%	4.9%
女性の方が非常に優遇されている	0.4%	1.0%	0.0%
わからない	11.4%	11.3%	11.5%
無回答	3.2%	1.3%	4.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(6) 社会通念・慣習・しきたりなど	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	25.0%	12.9%	34.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	54.5%	59.5%	50.5%
平等である	9.8%	16.8%	4.2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.0%	2.9%	1.3%
女性の方が非常に優遇されている	0.6%	1.3%	0.0%
わからない	5.9%	5.5%	6.3%
無回答	2.2%	1.0%	3.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(7) 自治会やPTAなどの社会活動の場	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	8.5%	3.2%	12.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	32.0%	27.8%	35.4%
平等である	29.0%	36.9%	22.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	8.9%	14.2%	4.7%
女性の方が非常に優遇されている	0.6%	0.6%	0.5%
わからない	17.7%	15.9%	19.3%
無回答	3.2%	1.3%	4.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(8) 社会全体	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
男性の方が非常に優遇されている	13.0%	5.2%	19.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	59.2%	56.0%	61.7%
平等である	14.9%	23.9%	7.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.0%	5.2%	1.3%
女性の方が非常に優遇されている	0.9%	1.9%	0.0%
わからない	6.3%	6.8%	6.0%
無回答	2.7%	1.0%	4.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○男性の方が優遇されていると感じられている項目（「男性が非常に優遇されている」「どちらかというに優遇されている」の合計）は、**(4) 政治の場**が最も多く、以下、**(6) 社会通念・慣習・しきたり**、**(8) 社会全体**、**(2) 職場**、**(1) 家庭生活**の順となっています。

○各質問項目で「（男女が）平等である」と答えた人は、女性より男性が多くなっています。

○**(3) 学校教育の場**では、「（男女が）平等である」と答えた人が全体で53.7%となり、質問項目の中で最も多くなっています。一方で、「わからない」と答えた人も20.2%と質問項目の中で最も多くなっています。回答者のうちの約6割が50歳を超えていることから、教育現場とは関わりの少ない年齢層にとって判断しづらい質問だったものと推測します。

Q2 次の言葉をご存じですか？

(1) 男女共同参画社会	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	43.9%	51.1%	38.0%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	37.4%	35.6%	38.8%
知らない	16.0%	12.3%	19.0%
無回答	2.7%	1.0%	4.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) ジェンダー	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	62.9%	59.9%	65.4%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	22.4%	25.6%	19.8%
知らない	11.8%	12.6%	11.2%
無回答	2.9%	1.9%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 女性活躍推進法	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	30.2%	30.7%	29.7%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	41.1%	41.7%	40.6%
知らない	26.1%	25.9%	26.3%
無回答	2.6%	1.6%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(4) ワークライフバランス	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	43.3%	47.2%	40.1%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	27.0%	23.6%	29.7%
知らない	26.7%	27.8%	25.8%
無回答	3.0%	1.3%	4.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(5) ドメスティックバイオレンス	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	88.3%	87.1%	89.3%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	7.4%	9.7%	5.5%
知らない	1.9%	2.3%	1.6%
無回答	2.5%	1.0%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(6) LGBT	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	66.1%	66.0%	66.1%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	14.7%	15.5%	14.1%
知らない	16.7%	17.5%	16.1%
無回答	2.5%	1.0%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(7) 所沢市男女共同参画推進センター ふらっと

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	10.4%	8.1%	12.2%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	22.1%	19.4%	24.2%
知らない	65.2%	71.2%	60.4%
無回答	2.3%	1.3%	3.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

評価
指標

(8) 選択的夫婦別姓制度

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
意味を知っている	66.5%	65.0%	67.7%
言葉だけは知っているが、意味はよく分からない	23.5%	24.9%	22.4%
知らない	7.2%	9.1%	5.7%
無回答	2.7%	1.0%	4.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○(7)所沢市男女共同参画推進センターふらっとを除いて、各言葉を知っている（「意味を知っている」「言葉だけは知っているが意味はよくわからない」の合計）と答えた人は、7割を上回っています。

○(2)ジェンダー、(6) LGBTについては、平成29年に行った第4次計画策定における市民アンケートの結果（それぞれ63.5%、55.0%）から大きく認知度が上昇しています。

○(7)所沢市男女共同参画推進センターふらっとは、「知らない」と答えた人が全体で65%を超えています。

男女共同参画推進センターふらっと」を知っている人の割合

評価
指標

第4次所沢市男女共同参画計画では、計画の進捗度を測る指標として、本市の男女共同参画の総合的な拠点施設である「男女共同参画推進センターふらっと」を知っている人の割合を用いています。

今回のアンケート調査では、「ふらっと」について「知っている」「言葉だけは知っている」が全体では、32.5%となり、平成29年度に行った前回の調査結果（30.5%）より2%増えていますが、令和2年度の目標値（40%）は未達成となりました。

基本目標	IV 男女共同参画を推進する体制の充実					
基本施策	1 市における推進体制の充実					
評価指標	「男女共同参画推進センターふらっと」を知っている人の割合			確認方法：市民アンケート		
現状値・目標値	現状値	年度別目標値				
	平成29年度	令和2年度	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度
実績値	30.5%	32.5%	45%	47%	49%	50%

Q3 「男女共同参画社会」をつくるために、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか (複数回答)

	全体
(1) 夫婦で参加できる家事・育児・介護に関する講座を行う	25.4%
(2) 人権教育を推進し、男女共同参画に関するテーマを取り入れた講座を行う	19.0%
(3) 学校で男女共同参画教育を行う	51.5%
(4) 市の施策に関する審議等を行う場に女性を登用する	35.0%
(5) 市職員管理職に女性を登用する	37.2%
(6) 企業に意思決定の場に女性が参画できるよう働きかける	37.0%
(7) 女性を対象とした各種相談やDV被害の救済体制を充実する	40.3%
(8) ひとり親家庭の生活安定のための支援を充実する	42.3%
(9) 女性がいきいきと職業生活を送るための資格・技能取得支援を充実する	31.6%
(10) 保育施設を充実する	60.6%
(11) 市が率先して模範となり男女共同参画の職場づくりを働きかける	36.2%
(12) 男性も女性も地域で活動し、地域のつながりをつくれるような支援	29.9%
(13) 介護家庭に対する支援を充実する	49.8%
(14) 男女共同参画を目的とした市民活動の支援を充実する	23.0%
(15) わからない	3.5%
(16) 特にない	1.0%
(17) その他	9.1%

特徴等

○男女共同参画社会をつくるために、行政に力を入れてほしいと思う施策は、(10)保育施設を充実、(3)学校での教育、(13)介護家庭への支援などの順になっています。

○回答者自身が力を入れてほしいと思う施策についても、Q3と同様の項目が上位になっています。

Q4 あなたが最も力を入れてほしいと思うこと

	全体
(1) 夫婦で参加できる家事・育児・介護に関する講座を行う	3.3%
(2) 人権教育を推進し、男女共同参画に関するテーマを取り入れた講座を行う	1.7%
(3) 学校で男女共同参画教育を行う	16.7%
(4) 市の施策に関する審議等を行う場に女性を登用する	3.0%
(5) 市職員管理職に女性を登用する	2.0%
(6) 企業に意思決定の場に女性が参画できるよう働きかける	3.3%
(7) 女性を対象とした各種相談やDV被害の救済体制を充実する	3.4%
(8) ひとり親家庭の生活安定のための支援を充実する	6.7%
(9) 女性がいきいきと職業生活を送るための資格・技能取得支援を充実する	4.3%
(10) 保育施設を充実する	16.2%
(11) 市が率先して模範となり男女共同参画の職場づくりを働きかける	5.7%
(12) 男性も女性も地域で活動し、地域のつながりをつくれるような支援	5.1%
(13) 介護家庭に対する支援を充実する	12.1%
(14) 男女共同参画を目的とした市民活動の支援を充実する	1.8%
(15) わからない	1.3%
(16) 特にない	0.7%
(17) その他	3.3%
無回答	9.6%
計	100.0%

Q5 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
その考えに賛成	2.3%	2.9%	1.8%
どちらかといえば賛成	23.2%	31.4%	16.7%
どちらかといえば反対	27.7%	29.1%	26.6%
その考えに反対	35.5%	25.9%	43.2%
わからない	10.2%	9.7%	10.7%
無回答	1.0%	1.0%	1.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

評価指標

特徴等

- 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきについて、反対（「反対」「どちらかといえば反対」の合計）と答えた人が全体では約63%となっています。
- 平成29年度に行った前回の調査結果（49.6%）よりも約13%多くなっています。
- 男女別にみると反対は男性が55%、女性が約70%となり、女性の方が男性より約15%多くなっています。

性別による固定的な役割分担意識がない人の割合

評価指標

第4次所沢市男女共同参画計画では、男女共同参画に関する意識がどの程度浸透したかを測る指標として、「男性は仕事、女性は家庭」という考えに「反対」、「どちらかといえば反対」とする人の割合を用いることとしています。

今回のアンケート調査では、全体で63%の人がその考えに「反対」、「どちらかといえば反対」と答えたことから令和2年度の目標値（52%）は達成しています。

基本目標	I 男女共同参画の意識の醸成					
基本施策	1 男女共同参画に関する理解の促進と意識の浸透					
評価指標	性別による固定的な役割分担意識がない人の割合			確認方法：市民アンケート		
	男女共同参画に関する意識がどの程度浸透したかを測る指標として、「男は仕事、女は家庭」という考えに「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合を用います。					
現状値・目標値	現状値	年度別目標値				
	平成29年度	令和2年度	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度
		52%	54%	56%	58%	60%
実績値	49.6%	63%				

Q6 この質問は、あなたを含めてご家庭に男性がいる場合のみお答えください。あなたの家庭で男性が家事（炊事・洗濯・育児・介護等）に充てている時間は1日あたりに平均すると、どの程度ですか。家庭に男性が複数いる場合は、全体の延べ時間で回答してください。

男性の家事時間 1日平均	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
なし	12.1%	7.4%	15.9%
15分未満	15.9%	12.3%	18.8%
15分～30分未満	15.7%	15.2%	16.1%
30分～1時間未満	17.3%	20.1%	15.1%
1時間～2時間未満	15.4%	24.9%	7.8%
2時間～4時間未満	9.2%	13.9%	5.5%
4時間～6時間未満	1.4%	1.3%	1.6%
6時間～8時間未満	0.1%	0.3%	0.0%
8時間以上	0.7%	0.6%	0.8%
無回答	12.0%	3.9%	18.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

- 家庭に男性がいる家庭の75.9%で男性が何かしら家事をしています。
- 男性は、家事の時間を1～2時間未満と答える人が多く、女性は15分未満と答える人が多くなっており、家事に対する捉え方や意識の差が表れています。
- 平成29年度に行った前回調査では、男性は家事時間「なし」と答える人が最も多く（17.2%）、今回は1時間～2時間未満と答える人が最も多く（24.9%）なっています。

Q7 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についておうかがいします。

(1) 現状に最も近いもの	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
「仕事」を優先	17.3%	24.3%	11.7%
「家庭生活」を優先	24.2%	14.9%	31.8%
「地域・個人の生活」を優先	3.8%	3.6%	3.9%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	26.4%	32.0%	21.9%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	4.8%	5.8%	3.9%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	11.4%	9.7%	12.8%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を全て大事にしている	7.1%	5.2%	8.6%
わからない	2.5%	3.2%	1.8%
無回答	2.6%	1.3%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

評価指標

(2) 希望に最も近いもの	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
「仕事」を優先	4.0%	7.8%	1.0%
「家庭生活」を優先	15.6%	14.2%	16.7%
「地域・個人の生活」を優先	4.8%	4.5%	4.9%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	26.3%	32.0%	21.6%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	3.8%	4.2%	3.4%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	13.4%	12.6%	14.1%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を全て大事にする	26.8%	21.0%	31.5%
わからない	2.9%	2.6%	3.1%
無回答	2.5%	1.0%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

- 「現状」では、男性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』と答えた人が32%と最も多くなっており、女性は『「家庭生活」を優先している』と答えた人が31.8%最も多くなっています。
- 「希望」では、男性は現状と同様に『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』と答えた人が32%と最も多くなり、女性は『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を全て大事にする』と答えた人が31.5%と最も多くなっています。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をすべて大事にしている人の割合

評価指標

第4次所沢市男女共同参画計画では、市民の間にワーク・ライフ・バランスの意識がどの程度浸透しているかを測る指標として、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をすべて大事にしている人の割合を用いています。今回のアンケート調査では、全体で7.1%となり、令和2年度の目標値（14%）は未達成となりました。

基本目標	Ⅲ すべての人が仕事や家庭でいきいきと活躍できる環境の推進 【女性活躍推進法に基づく市町村推進計画】					
基本施策	2 ワーク・ライフ・バランスの推進					
評価指標	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をすべて大事にしている人の割合			確認方法：市民アンケート		
	市民の間にワーク・ライフ・バランスの意識がどの程度浸透しているかを測る指標として、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をすべて大事にしている人の割合を用います。					
現状値・目標値	現状値	年度別目標値				
	平成29年度	令和2年度	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度
		14%	18%	22%	26%	30%
実績値	10.1%	7.1%				

※ Q8は3ページに記載

Q9 働いている方におうかがいします

(1) 週に何時間働いていますか	全体	男性	女性	(2) 働き方で最も近いもの	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比		構成比	構成比	構成比
10時間未満	7.5%	7.6%	7.4%	正社員・正職員	49.2%	61.9%	37.6%
10時間から19時間	10.1%	4.0%	15.7%	パート・アルバイト	27.7%	13.9%	40.5%
20時間から29時間	11.6%	7.6%	15.3%	派遣社員・契約社員	7.5%	9.4%	5.8%
30時間から39時間	11.6%	8.1%	14.9%	自営・独立事業者・フリーランス・SOHO	9.5%	12.6%	6.6%
40時間から49時間	34.4%	40.8%	28.5%	内職	0.2%	0.0%	0.4%
50時間以上	19.6%	31.4%	8.7%	家業・家族従業員	2.4%	2.2%	2.5%
無回答	5.2%	0.4%	9.5%	その他	1.5%	0.0%	2.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	無回答	1.9%	0.0%	3.7%
				合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○ (1) (2) とともに前回の調査結果と構成順位に大きな変化はありません。

○ 男性は「正社員・正職員」が最も多く、女性は、「パート・アルバイト」が最も多くなっています。

※クロス集計 「20歳代から50歳代」の「就労している女性」が「正社員・正職員・自営業等」である割合

「性別」「年齢層」「働き方」のすべてに回答しているものの集計。(いずれかに1つでも無回答が含まれるものは集計対象外とする。)

「4 産休・育休・病休などで一時的に仕事を休んでいる」を含む。

	人数	構成比
正社員・正職員	86	49.7%
自営・独立事業者等	9	5.2%
パート・アルバイト	65	37.6%
派遣社員・契約社員	8	4.6%
内職	0	0.0%
家業・家族従業員	3	1.7%
その他	2	1.2%
合計	173	100.0%

評価
指標

就労している女性が正社員等である割合

評価
指標

第4次所沢市男女共同参画計画では、女性の就労のための支援の効果を測る指標として、20歳代から50歳代の就労している女性が正社員・正職員・自営業等である割合を用いています。

今回のアンケート調査では54.9%という結果になり、目標値である53%は達成となりました。

基本目標	Ⅲ すべての人が仕事や家庭でいきいきと活躍できる環境の推進 【女性活躍推進法に基づく市町村推進計画】					
基本施策	1 女性の就労のための支援					
評価指標	就労している女性が正社員等である割合			確認方法：市民アンケート		
	女性の就労のための支援の効果を測る指標として、20歳代から50歳代の就労している女性が正社員・正職員・自営業等である割合を用います。					
現状値・目標値	現状値	年度別目標値				
	平成29年度	令和2年度 53%	令和4年度 55%	令和6年度 57%	令和8年度 59%	令和10年度 60%
実績値	52.3%	54.9%				

Q9-2 あなたの職場環境についておうかがいします

(1) 男性が育児休暇を取得しやすい職場か	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
取得しやすい	12.7%	14.8%	10.7%
どちらかといえば取得しやすい	20.2%	22.9%	17.8%
どちらかといえば取得しにくい	15.1%	18.4%	12.0%
取得しにくい	25.8%	28.7%	23.1%
わからない	23.0%	14.8%	30.6%
無回答	3.2%	0.4%	5.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 女性が育児休暇を取得しやすい職場か	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
取得しやすい	41.1%	43.0%	39.3%
どちらかといえば取得しやすい	23.2%	23.3%	23.1%
どちらかといえば取得しにくい	8.6%	9.0%	8.3%
取得しにくい	8.8%	7.6%	9.9%
わからない	15.5%	17.0%	14.0%
無回答	2.8%	0.0%	5.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 男性が介護休暇を取得しやすい職場か	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
取得しやすい	12.9%	14.3%	11.6%
どちらかといえば取得しやすい	18.7%	22.0%	15.7%
どちらかといえば取得しにくい	15.7%	18.8%	12.8%
取得しにくい	21.5%	21.5%	21.5%
わからない	28.6%	23.3%	33.5%
無回答	2.6%	0.0%	5.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 女性が介護休暇を取得しやすい職場か	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
取得しやすい	21.5%	22.0%	21.1%
どちらかといえば取得しやすい	21.7%	24.2%	19.4%
どちらかといえば取得しにくい	13.8%	15.7%	12.0%
取得しにくい	13.8%	9.9%	17.4%
わからない	26.5%	28.3%	24.8%
無回答	2.8%	0.0%	5.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 有給休暇を取得しやすい職場か	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
取得しやすい	38.5%	39.9%	37.5%
どちらかといえば取得しやすい	24.7%	23.8%	25.8%
どちらかといえば取得しにくい	9.0%	8.5%	9.6%
取得しにくい	14.2%	16.1%	12.5%
わからない	10.3%	11.7%	9.2%
無回答	3.2%	0.0%	6.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○(1)男性が育児休暇を取得しやすい職場環境かは、第4次計画策定時に行った調査と比較して、男性は「取得しやすい」「どちらかといえば取得しやすい」の各回答が増え、全体で約14%から21.9%に増加しています。「どちらかといえば取得しにくい」「取得しにくい」は全体で40%から27.3%に減少しています。

○女性も同様の状況にあり、「取得しやすい」「どちらかといえば取得しやすい」が全体で約5%増え、「どちらかといえば取得しにくい」「取得しにくい」が約8%減少しています。

○(3)男性が介護休暇を取得しやすい職場環境かは、育児休暇と同様の結果となり、第4次計画策定時に行った調査と比較して、男性は「取得しやすい」「どちらかといえば取得しやすい」の各回答が増え、「どちらかといえば取得しにくい」「取得しにくい」が減っています。「取得しにくい」は約10%減少しています。

○女性も同様の状況にあり、「取得しやすい」が7%増え、「どちらかといえば取得しにくい」「取得しにくい」がそれぞれ約5%減少しています。

○男性はまだ「介護休暇を取得しにくい」職場が多いですが、着実に「取得しやすい」職場が増えているものと捉えられます。

○女性についても、さらに介護休暇が取得しやすい職場が増えており、全体で育児休暇・介護休暇への理解が進んでいることがうかがえます。

○育児休暇、介護休暇のどの項目でも無回答が約35%あるのは、概ね働いてない人の数字であると想定されます。

Q10 男性または女性が育児休暇・介護休暇をとることについてどのように思いますか

(1) 男性が育児休暇をとること	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
賛成	58.7%	50.2%	65.6%
どちらかといえば賛成	28.3%	32.0%	25.3%
どちらかといえば反対	4.0%	6.1%	2.3%
反対	1.4%	2.3%	0.8%
わからない	4.6%	6.5%	3.1%
無回答	2.9%	2.9%	2.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 女性が育児休暇をとること	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
賛成	82.5%	79.0%	85.4%
どちらかといえば賛成	12.0%	15.5%	9.1%
どちらかといえば反対	0.3%	0.0%	0.5%
反対	0.4%	1.0%	0.0%
わからない	1.6%	2.6%	0.8%
無回答	3.2%	1.9%	4.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 男性が介護休暇をとること	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
賛成	68.5%	60.5%	75.0%
どちらかといえば賛成	23.2%	29.4%	18.2%
どちらかといえば反対	1.4%	1.3%	1.6%
反対	0.7%	1.3%	0.3%
わからない	2.5%	5.2%	0.3%
無回答	3.6%	2.3%	4.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 女性が介護休暇をとること	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
賛成	74.6%	69.6%	78.6%
どちらかといえば賛成	18.8%	22.0%	16.1%
どちらかといえば反対	0.6%	0.3%	0.8%
反対	0.4%	1.0%	0.0%
わからない	2.2%	4.5%	0.3%
無回答	3.5%	2.6%	4.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○(1)男性が育児休暇をとることについて、(2)女性が育児休暇をとることについての結果は、男女ともに「賛成」が最も多くなっています。全体で「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合計すると、男性87%、女性94.5%となり、反対は少数となっています。

○(3)男性が介護休暇をとることについて、(4)女性が介護休暇をとることについての結果は、男女ともに「賛成」が最も多くなっています。全体で「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合計すると、男性91.2%、女性93.4%となり、反対は少数となっています。

○育児休暇、介護休暇を取得することについては、性別問わず理解が進んでいることがうかがえます。

Q11 あなたはこれまでに、配偶者・パートナー・恋人から以下のような行為をされたことがありますか

(1) ながる、ける、突き飛ばされるなどの身体に対する行為	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
今現在、ひんぱんにある	0.3%	0.6%	0.0%
今現在、少しある	1.3%	2.3%	0.5%
過去に何度もあった	1.7%	1.0%	2.3%
過去に数回程度あった	9.8%	7.1%	12.0%
まったくない	84.6%	87.1%	82.6%
無回答	2.3%	1.9%	2.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 刃物などを突きつける、ながるふり、物を投げつける、どなる、ドアや壁をけるなどの脅し	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
今現在、ひんぱんにある	0.3%	0.3%	0.3%
今現在、少しある	0.9%	0.6%	1.0%
過去に何度もあった	2.3%	1.3%	3.1%
過去に数回程度あった	7.9%	6.1%	9.4%
まったくない	86.3%	89.6%	83.6%
無回答	2.3%	1.9%	2.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 家族・親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じる脅迫	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
今現在、ひんぱんにある	0.4%	0.6%	0.3%
今現在、少しある	0.9%	1.3%	0.5%
過去に何度もあった	1.3%	0.3%	2.1%
過去に数回程度あった	3.2%	1.9%	4.2%
まったくない	92.1%	93.9%	90.6%
無回答	2.2%	1.9%	2.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 人格を否定するような暴言・交友関係の監視・長期間無視などの精神的いやがらせ	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
今現在、ひんぱんにある	0.6%	0.3%	0.8%
今現在、少しある	1.3%	0.6%	1.8%
過去に何度もあった	3.3%	1.0%	5.2%
過去に数回程度あった	9.4%	7.1%	11.2%
まったくない	83.1%	88.7%	78.6%
無回答	2.3%	2.3%	2.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(5) いやがっているのに、性的な行為を強要	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
今現在、ひんぱんにある	0.1%	0.0%	0.3%
今現在、少しある	0.0%	0.0%	0.0%
過去に何度もあった	1.4%	0.3%	2.3%
過去に数回程度あった	4.6%	1.0%	7.6%
まったくない	91.5%	96.4%	87.5%
無回答	2.3%	2.3%	2.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(6) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理にやめさせるなど経済的に弱い立場に立たせる	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
今現在、ひんぱんにある	0.4%	0.3%	0.5%
今現在、少しある	0.4%	0.6%	0.3%
過去に何度もあった	1.6%	0.0%	2.9%
過去に数回程度あった	2.6%	0.3%	4.4%
まったくない	92.8%	96.8%	89.6%
無回答	2.2%	1.9%	2.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○配偶者等からの暴力の被害経験についてたずねたところ、経験がある人（「まったくない」「無回答」を除いた全体）が、全体では5～15%割程度となっています。

○被害経験では、(4)人格否定などの精神的いやがらせが男女ともに最も高くなっています。

n=705

Q12 DVに対する対策や支援として、特にどのようなことを充実すべきだと思いますか（複数回答）

	全体
(1) 「DVは犯罪である」ことの啓発や、相談窓口の周知	63.0%
(2) カウンセリングなどの相談体制の充実	54.3%
(3) いざというときに逃げられる場所（保護施設）の充実	76.7%
(4) 避難後の住居や仕事などの生活支援の充実	63.4%
(5) 離婚調停などの法的な支援の充実	45.1%
(6) 加害者に対する厳正な対処	67.5%
(7) 学校でデートDV防止講座を実施する	32.8%
(8) 地域での見守り体制の整備	28.1%
(9) その他	5.1%

特徴等

○DVに対する対策・支援は、(3)いざというときに逃げられる場所（保護施設）の充実、(6)加害者に対する厳正な対処、(4)避難・保護場所の充実、(1)啓発や相談窓口の周知が上位に入っています。

○前回調査と比較すると、(4)避難・保護場所の充実 が約15%増加しています。

Q13 あなたは、性的少数者に当てはまると思いますか

	回答数	全体
はい	5	0.7%
いいえ	635	90.1%
わからない	38	5.4%
無回答	27	3.8%
計	705	100.0%

特徴等

○民間等の各種アンケート調査によると、性的少数者は約8～13%と言われることが多いですが、「はい」、「わからない」、「無回答」を全体すると、その範囲内に相当します。

n=693

Q14 現在、性的少数者の方にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いませんか

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
そう思う	35.5%	34.3%	36.5%
どちらかと言えばそう思う	46.0%	44.7%	47.1%
どちらかと言えばそう思わない	9.4%	11.7%	7.6%
そう思わない	4.5%	5.2%	3.9%
無回答	4.6%	4.2%	4.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○偏見差別による生活しづらさについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人は全体では8割を超えています。

Q15 あなたは「パートナーシップ制度」について、所沢市でも導入すべきだと思いますか。よろしければ、その理由も教えてください

※パートナーシップ制度

現行の婚姻制度で関係を結べない性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）を対象にした制度。カップルが互いに人生のパートナーであることを自治体に届出し、届出があったことに対して、自治体が「パートナーシップ届出書受領証」等を交付する。この制度は、婚姻制度とは異なり、法律上の効力（相続、税金の控除など）が生じるものではないが、周囲の方の理解が得られないことによる悩みや生きづらさを少しでも軽減し、自分らしい生き方に寄り添うことを主な目的としている。

*クロス集計 パートナーシップ制度の導入年齢別・男女別人数

n=693（男性309、女性384）

制度を導入すべきか	全体		
	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
導入すべきである	48.5%	43.0%	52.9%
導入すべきではない	8.2%	13.9%	3.6%
どちらともいえない	34.3%	35.0%	33.9%
無回答	8.9%	8.1%	9.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

	導入すべき		導入すべきではない		どちらともいえない		無回答	
	男	女	男	女	男	女	男	女
18～19歳	1	9			3	1		
20～29歳	20	27	2	1	5	8	3	2
30～39歳	26	36	4	1	12	14		1
40～49歳	16	44	3	1	14	15		
50～59歳	22	29	8	5	17	31	3	2
60～69歳	31	42	8	5	30	32	10	9
70～79歳	17	16	18	1	27	29	9	23
合計	133	203	43	14	108	130	25	37

特徴等

- 「導入すべきである」と答えた人の理由は、「反対する理由がない」「人権尊重」「誰もが幸せになる権利がある」「導入してもデメリットはない」が多数を占めました。
- 「導入すべきではない」と答えた人の理由は、「国が決めるべき」「制度の悪用が心配」「理解できない」という主旨の内容が多数を占めました。
- 「導入すべきではない」と答えた人の割合は、男性が女性より10%程度多く、高い年齢層ほど反対意見が多くなっています。（クロス集計参照）
- 「導入すべきである」「すべきではない」「どちらともいえない」の回答それぞれに「制度がよくわからない」という自由意見が多くありました。制度の認知が十分に広がっていないことがうかがえます。

Q16 新型コロナはあなたの収入に影響を与えましたか

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
収入が2割以上増えた	0.9%	1.3%	0.5%
変わらない	73.7%	74.8%	72.9%
収入が2割以上減った	11.3%	11.0%	11.5%
収入がなくなった	3.6%	3.6%	3.6%
その他	7.9%	7.8%	8.1%
無回答	2.6%	1.6%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○今回のアンケート調査では、男女間の有意差は認められませんでした。

Q17 新型コロナの影響で、あなたご自身の労働時間は変わりましたか

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
2割以上増えた	5.3%	4.2%	6.3%
あまり変わらない	69.4%	71.8%	67.4%
2割以上減った	13.6%	15.9%	11.7%
無回答	11.7%	8.1%	14.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

○労働時間の変化について、男女ともに「あまり変わらない」と答えた人が一番多くなっています。

○Q16,Q17について、今回のアンケート調査の回答者のうち、約4割の年齢が60歳以上のため、収入や労働時間が変わらない人が多くなっている可能性があります。

Q18 コロナ禍の前と比べ、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか（複数回答）

	全体
家事の負担が増えた	20.7%
家事の負担が減った	1.3%
仕事や勉強に集中できなくなっている	8.4%
仕事や勉強に集中できている	3.1%
子どもを叱ることが増えた	3.1%
子どもを叱ることが減った	0.3%
同居人との関係が悪くなった	5.7%
同居人との関係が良くなった	5.8%
人との交流機会が減った	72.3%
生活に対する不安を抱えている	24.4%
感染への不安を抱えている	59.4%
特に変化はない	11.8%
その他	7.8%

特徴等

○コロナ禍での生活・行動・心身の変化について、「人との交流機会が減った」72.3%、「感染への不安を抱えている」59.4%、「生活に対する不安を抱えている」24.4%、「家事の負担が増えた」20.7%の順で多くなっています。

○感染症対策によるステイホーム等により、人との交流が減った中、家事の負担増加や家族関係など様々な影響がでていることが見受けられます。

○コロナ禍での女性の支援について、「相談先に関する情報提供」が64.4%が最も多く、以下「SNSを活用した相談の充実」37.2%、「電話相談の充実」31.6%、「面接相談の充実」21.8%の順となっています。○「その他」63件中で、27件で「コロナ禍では男性も女性も困っているのに、なぜ女性だけを対象として支援するのか」という主旨の意見がありました。

Q19 コロナ禍において、女性に対する支援としてどのような施策が必要と思いますか（複数回答可）

	全体
仕事や生活等の不安がある際の相談先に関する情報提供	64.4%
電話相談の充実	31.6%
面接相談の充実	21.8%
メールやSNSを活用した相談の充実	37.2%
その他	8.9%

Q 24 女性の方におうかがいします。あなたは困ったり悩んだりしたときに、「所沢市男女共同参画推進センター“ふらっと”」や「埼玉県男女共同参画推進センター（With Youさいたま）」などの公的な相談窓口にご相談しようと思いますか。

	女性
相談しようと思う	22.9%
相談しようとは思わない	24.2%
公的な相談窓口以外に相談する	4.7%
わからない	46.1%
無回答	2.1%

評価
指標

特徴等

○「わからない」が多い理由として、女性への「ふらっと」の認知度が36.4%（Q2 - （7）参照）と高いことや、公的窓口へ相談する心理的ハードルが存在していることなどが推測されます。

公的な相談窓口にご相談しようと思う人の割合

評価
指標

第4次男所沢市女共同参画計画では女性への支援策の充実度を測る指標として、女性が困ったり、悩んだりしたときに、ふらっとや埼玉県男女共同参画推進センター（With Youさいたま）などの公的な相談窓口にご相談しようと思う人の割合を用いています。今回のアンケート調査では、「相談しようと思う」と答えた人が22.9%であり、令和2年度の目標値（30%）は未達成となりました。

基本目標	Ⅱ 誰もが尊重される安心な社会の実現					
基本施策	1 女性への支援					
評価指標	公的な相談窓口にご相談しようと思う人の割合			確認方法：市民アンケート		
	女性への支援策の充実度を測る指標として、女性が困ったり、悩んだりしたときに、ふらっとや埼玉県男女共同参画推進センター（With Youさいたま）などの公的な相談窓口にご相談しようと思う人の割合を用います。					
現状値・目標値	現状値	年度別目標値				
	平成29年度	令和2年度	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度
実績値	25.9%	30%	40%	50%	60%	70%
		22.9%				

Q 24 自由意見欄

	全体	男性	女性
	構成比	構成比	構成比
回答あり	20.8%	21.0%	20.6%
回答なし	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	79.2%	79.0%	79.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

特徴等

○全回答者うちの約2割からアンケート内容や市政にとどまらず様々な意見がありました。その中でも「男女共同参画という言葉や意味を知らなかった」「ふらっとを知らなかった」、また「相談窓口を知ってよかった」という意見が多くあり、市はあらゆる機会を捉えて周知に努める必要があります。